

平成 2 7 年度

第 3 回 温海地域振興懇談会
会議録（概要）

期 日：平成 2 7 年 1 1 月 1 9 日（木）
場 所：鶴岡市温海庁舎 6 階大会議室

平成27年度 第3回温海地域振興懇談会

- 期 日 平成27年11月19日(木) 午後1時30分～午後3時52分
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 奥井厚委員、大井喜助委員、菅原久継委員、佐藤清八郎委員、若松邦彦委員
小田正宏委員、佐々木真人委員、佐藤美代子委員、佐藤眞紀子委員、
本間加知子委員、五十嵐正直委員 11名
- 欠席委員 佐藤満也委員、三浦喜一郎委員、粕谷明委員、伊藤貢委員 4名
- 市側出席者
- 《温海庁舎》
温海支所長 鈴木金右エ門、総務企画課長 三浦市樹、市民福祉課長 石塚みさ
産業課長 佐藤光治、温海建設事務室長 佐藤伸一
総務企画課課長補佐(兼)総務地域振興主査 五十嵐浩一
総務地域振興専門員 本間由縁
- 《本 所》
企画部 政策企画課 主査 上野修
地域振興課 地域振興専門員 齋藤芳

市三浦総務企画課長 平成27年度第3回温海地域振興懇談会を開会いたします。はじめに、温海地域振興懇談会奥井会長よりご挨拶を頂戴いたします。

会長 みなさんこんにちは。だいぶ寒くなってきて、毎日のようにストーブにお世話にならないといけない季節になっています。辺りの山も山頂の方は葉が落ちて冬景色に変わっております。これから厳しい寒さに向かうわけですが、今年も予報を聞くと温暖だという予報も出ているようで、温暖の場合はドカ雪が降るような例年の状況になっているようでございます。海の方は水温が高くてもまだ冬の魚が到来していない状況でもありますので、これから毎日の天気予報もみながら、生活に、健康には留意しながら頑張っていければと思います。今日は鶴岡市の鶴岡市総合計画の三か年計画について皆さんのご意見をいただく事になっております。併せて温海庁舎の計画もご説明いただき、これもまた皆さんからご意見をいただくことになっておりますので、活発なご意見をいただく事をお願いしまして簡単ですが開会の挨拶に代えさせていただきます。大変ご苦勞さまでございます。

市三浦総務企画課長 ありがとうございます。続きまして、温海庁舎鈴木支所長よりご挨拶申し上げます。

市 鈴木支所長

私からも一言ご挨拶させていただきたいと思います。本日は公私共に大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。皆さま方よりは日頃より市政全般にわたりましてご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。今年は大きな災害もなく、収穫を終えられましたことを皆さまと共に喜びたいと思いますし、また10月、11月とかけまして各地域で多くのイベントが開催されました。地域の賑わいづくりと活性化にそれぞれご貢献いただいたところでありますし、関係された皆さまに感謝申し上げます。さて、前回の地域振興懇談会におきましてはコミュニティ、福祉、産業の分野などの課題を中心に分散会で意見交換をさせていただいたところがございます。そのまとめとして本日資料もありますし、併せて市の総合計画実施計画についてご説明させていただきたいと思いません。また、前回いただいた課題等についてご報告させていただきますが、更に深めた形での意見交換をさせていただければと考えております。市といたしましても現在予算編成時期でありますし、人口減少、少子高齢化社会における地域づくりがどうあればよいか、豊かな文化は各地域の特性があつてこそであり、ここに住んでいる一人ひとりが地域で元気に暮らしていける生活環境の確保ということを目指しております。今後とも、様々な施策に取り組んでいく予定でありますので、皆さまからもご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。この後、資料の説明の後、皆さまからご意見をいただく予定でありますのでよろしくお願い致します。結びにあたりまして、例年のことではありますが、会長さんもおっしゃいました通り、間もなく降雪の時期をむかえます。体調管理には十分お気をつけてお過ごしただければと思います。本日はよろしくお願い致します。

市 三浦総務企画課長

それではこれより会議の進行につきましては、設置要綱第6条の規定によりまして、会議の議長は会長が行うことになっておりますので、奥井会長より議長をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

議長

それでは協議に入らせていただきます。はじめに（1）鶴岡市総合計画実施計画についての説明を鶴岡市政策企画課上野主査からご説明お願い致します。

《 資料説明・・・政策企画課上野主査 》

議長

ただいまご説明ありました、鶴岡市総合計画実施計画について皆さまよりご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員

6 ページのシルクタウンプロジェクトの推進ということで、日本遺産への登録の取り組みを進めると書いてありますけれども、今年度官公庁の方で2020年まで

100箇所を目標に推進したいということで始めて、1回目から登録申請をお願いしたわけですが、残念ながら選考にもれませんでした。エントリーが70位で、登録されたのが17箇所位だったと思いますが、漏れたわけですね。来年度も継続のようですが、なぜ漏れたのかという検証も必要ではないかと思います。あつみ温泉は庄内藩と共に歩んできたという歴史がありまして、2022年にはちょうど400年を迎えます。そういった意味で庄内藩と共にという考え方からして、この松ヶ岡開墾場は非常に興味深く考えております。鶴岡シルクタウンの礎をつくった庄内藩ですので、その辺の歴史を含めて登録に力を入れていただいて、来年度是非登録になってくれると、あつみ温泉としても非常に宣伝にもなりますのでいいのかなと思っております。その辺の今年度なぜ選考から漏れたのか等について分かる範囲でお答えいただきたいと思います。

市上野主査

今年度は残念ながら駄目だったわけですが、山形県からは、松ヶ岡と最上川を全体的に取り上げたもので2件申請しているみたいです。結果的にどちらもダメでしたが、分析等は今現在行っているところです。国としてはストーリー性をしっかりしなさいと、その辺を重視しているようでありまして、先程おっしゃられたように酒井藩という流れで組み立ててはありましたが、その辺もう一度、日本遺産登録に向けてのストーリーの組み立てを練り直しているところがございます。国と直接やり取りをしているのは県の方でやり取りをしているもので、県からの情報または東京事務所を通して国からの情報を探りながらもう1回申請に向けて取り組んでいるところがございます。

委員

わかりました。このシルクタウンということですが、鶴岡絹産業というのは日本でも唯一鶴岡が全工程確認できるということと、富岡製糸場と同じ製糸機を松岡企業は持っておりまして、3台持っているのですけれども、その工程は日本にここしかありませんので、鶴岡シルクタウン全体をストーリー化して再度挑戦していただければと思います。

議長

今、再度お願いの要請がありましたので、市の方も県に呼びかけていただいて、よろしくお願ひします。その他皆さんからありませんか。

委員

シルクタウンプロジェクトのお話がありました。昨日、世界に誇る地域資源の鶴岡シルクを活かしたまちづくりということで、生活文化創造都市推進事業という中で、シンポジウムがあったわけです。その中で、市長も出席をされておりまして、挨拶の中でもシルクタウンプロジェクト、いわゆるシルクに関わるこれからの鶴岡市のもっていき方、非常に重要視しているということもお話ありました。それで今、

一貫して生産工程があるこの町でありますけれども、例えば川上の話が必要で、まず桑が必要ですね。もちろんそこに生産する人達が必要なわけです。いわゆる技術者もほとんどいなくなっている中で、これらの育成も当然図っていかないと、ただの川下だけの議論では到底駄目だろうということです。昨日、松ヶ岡の理事長さんも来たわけでありまして。その中でも一貫して生産から様々なものを一体化していかないと本物にならないということと、まだまだ課題があるという話の中で、この新たな絹に関わる事業を展開していくという方向になったようです。具体的に来年度からどういった方向で何年がかりでどうするかはまだ具体的には示されていないということでありまして、この事業を是非もう少し具体的に示していただけると大変ありがたいので、よろしく申し上げます。

市上野主査

今おっしゃられた通り、生産から販売まで一体的にこの地域でやっていきたいわけですが、先程桑の件も温海地域でも土地を借りてお願いしてあるわけですが、それ以前に藤島にあった繭農家さんが1軒だけ市内にありましたが、その方が亡くなられたという事情もありまして、その繭の生産というところ、桑の生産も関係してくるわけですが、その辺あたりを今後重点的に取り組んでいかなければならないということで考えておりまして、具体的にはまだなっていないので今後詰めていきたいと思っております。

議長

今、養蚕のお話が出ましたけれども、その他皆さんから何かありましたら。

委員

私は町民として70年以上生きてきましたが、レポートによると2040年には市町村が半分に、山形県では80%になる。その中に鶴岡や酒田も入っているわけです。しかし、これは何もしなかったら2040年までには潰れるという見方なのですね。今現在、温海は合併して温海地域となっていますがこのやり方、温海の生き方というものをここで考えていかないとなりません。計画は素晴らしいと思いますが、どうしたらできるのかということなのです。温海で一番は年金で、その次に農林業、漁業、観光業なのです。こういう順序で進んでいる。果たしてこれが27集落に平均370万の経費をかけたら1億ですよ。この1億が1年間に維持していくだけでなくなる。こんなことをしてこのお金がどこから出てくるかということみんな年金です。7割方は調べると年金です。だから何年か前に山間部の方で、こんなに高い自治会費を出してこんな所にいられないと、鶴岡市に集団でどんどん出て行ったわけです。なぜかという、鶴岡市内に出ていけば500円の町内会費で済むのだと。今現在、そういうやり方でなんとか守ろうと思ってやっているからものすごい負担がかかっているわけです。はっきり言ってもものすごいお金です。それで、何をしているかといったら、何の様変わりもないやり方をやっています。この

ようなことを続ければ温海が一番先に潰れると思います。これを解消するには、部落や集落は根強いので、地区とは呼ばずに温海ブロック、福栄ブロック、鼠ヶ関ブロックなど、3つか4つにして1つに形成していかないとできないと考えているので、その辺もこれからの課題だと私は思っています。それと、会社が来てくれればというまだ望みはあるというけど、鶴岡の大手の会社もよそに行くので、この温海に会社なんて来ないと思います。来なかったら、これからはどうやって生きていくかということを考えた方がいい。人を集めること、そして売ることだと思います。加茂の住民がたかがクラゲになぜこんなに人が集まるのかびっくりしています。ここにも温泉、山、海の新鮮なもの、これに歴史文化を交えていけば必ず温海版ができると思います。

森林組合の話に入りますが、大きな木が売れなくなってきました。木を若返らせないと、歳を取った木ばかり立っていてもしょうがないことなので、今、県や市で一生懸命になって昔の木を計画的に切っています。そして、完全な肥料のやらない50年前位の本当の焼畑かぶのブランド品を作って、買ってもらうというやり方をして、杉を植えてそして下刈りをして、大きくなってきたらわらびが出でくる。それも全部収入に入れて、山主がお金を出さなくても県や市の補助で足りない分はかぶの収入から補い、なんとか山を若返らせて温暖化から守ろうという計画で、今年から進めております。来年から徐々に実行することになっており雇用も生まれません。ここに6次産業とありますけれども、私の思いは、今、福栄小学校が閉校になります。この福栄小学校の調理室を借りて、下の所に雪室を作って温海かぶを作り、インターネットなどで注文を取り1年中温海かぶを売ったらビジネスになるのではないかと思い、6次産業として取り組んでいきたいと考えています。

この様な懇談会もいいと思いますけれども、市長などを招いてシンポジウムやパネルディスカッションなどを行って、温海版というものを作っていかないと、どこも一緒ではだめだと思います。公民館、自治会という単位ではなく、大きな枠の中のまちづくりが必要だと思います。

そのために一番必要なのは温海の観光だと思います。温泉はどこにでもあるわけではない。しかし、バラまつりもせせらぎの能もマンネリ化してきました。朝市にしてもちょっとした考えで、熊野神社よりも古い温泉神社があるのだから、各集落から石を集めて足湯でも作って神様を拝むなど、そういうアイデアを出して人を呼んで物を売っていかないと駄目だと思うので、これからはみんなで充分勉強しあって良い温海にしていかなければいけないと思います。

議長

今、様々なご提案をいただきました。これに対して何かご意見ありましたらお願いいたします。

委員

私どもの集落は山間集落ですけれども、考えてみると過疎の一番の原因は仕事の間だと思えます。以前はそれなりに山間地域に住む意味、例えば炭を焼いたり、そこに就労の場があったわけですから、今はほとんど勤めに行っているということで、必ずしもその村に住んでいなければならないというようなものでもないのだから、便利の良い所というふうになるわけです。それはそれでやむを得ないですが、今回の実施計画は非常に立派だと思いますが、よく見ると具体的に何をやっていくのかなどさっぱり分からないと私は思います。私の集落は山間地域なので、できれば山の活用は今森林組合長が言ったように重要だと思います。例えば、特用林産物というものが一言も触れられていません。杉の値段が悪いということで、持続可能な林業ということで林道や産業道の整備をしますという大上段から構えたものだけで、森林組合長が言うような山菜など山を活かした、場合によってはシルクも含めてそういうものをまとめて平場と1本にするのではなくて、平地、中山間地帯、山間地帯と分けてやるような計画を組めないでしょうか。非常に立派で非の打ち所がないわけですが、私どもの生活がどう変わるのかと思った場合に、ほとんどみんな関わっていると言えればそれまでですが、具体的なものが見えないというのが意見です。できれば直接関わるような特用林産物を項目に入れていただくと非常に分かりやすくなってくると思いますので、今の森林組合長の意見に関連して質問させていただきます。

議長

後ほど(2)で温海地域振興計画の推進及び温海庁舎重点課題についてありますが、そちらの方に意見が集中してきておりますので、(2)も一緒に進めてはいかがでしょうか。では、(2)温海地域振興計画の推進及び温海庁舎重点課題について事務局から説明をお願いします。

《 資料説明・・・五十嵐課長補佐 》

議長

今、重点課題等、前回の分散会のまとめをいただいたわけですが、皆さんからご意見ご質問がありましたらお願いします。

委員

(2)の一番後の、コンビニが撤退したことで弁当の配達サービスでこの時も話が出ました。一人暮らしの人が大変困っているということでしたが、その後今日まで経っていますが、どのようになっているのかお聞きしたいと思います。

市 石塚市民福祉課長

この件に関してお話があったのですが、具体的なお名前を聞いていなかったものですから、特にその後どうしたという話はこちらの方では申し訳ありませんが確認はしていないところです。後で具体的に教えていただければと思いますが、高齢者

の一人暮らしの為の配食サービスについてはコンビニだけではなくて、温海に1事業所、配達サービスをしてくださる所があります。その利用も現在1人しかいないということで、宣伝不足か分かりませんが、そこは利用できる状態になっていて、コンビニの隣にある事業所なのでそことうまく連携できればいいのかなと思います。ただ、その事業所も実際利用者が少ないものですから、今後継続できるかというところが今私どもの課題ともなっております。

議長

その他何かご意見がありましたらお願いします。

委員

有線放送の関係ですが、自治会長会からの支援策の要望に対する回答書を見せてもらいましたが、今日の資料の中にも街灯について、電線の張替えなど相当額がかかりますということで、独自の支援策をとということです。全部が全部、市の方は全市を見通した共通制度と全ての内容の見直しを図り、先程のところもそうすけれども統一性ばかりが強くなるのです。最初に始まったのが水道料で、相当温海地域は値上がりしたわけです。自治会関係ではやっとなら街灯のLED化ということで大分電気料は自治会の負担も少なくなったところですが、やはり温海、朝日等合併したところではそれぞれの特性がありました。そのところをもう少し考えて、有線放送の独自性など過疎債を使った手だてなどができないものか。先程の実施計画は全般均一のもので、温海など後の方で出てきますが、その辺知恵を絞っていただければありがたいと思います。

議長

今、ご意見、ご質問がありましたけれども、その点で総務企画課長お願いします。

市三浦総務企画課長

有線放送、防犯灯等の意見がありましたけれども、有線放送の補助の件につきましては、今ありましたように自治会長会で今年度に入りましてから市長あてに要望書を提出しております。それから、4月になってから市長と語る会、この中でも有線放送をテーマにした懇談も行われておりますが、議論といいますか、市長の回答の中でも合併から10年経過して、各地域で色々凹凸のある補助制度については一通りまず見直していきたいと。尚且つ、地域で必要なものについてはそこで計画をもって必要性のあるものについては出してほしいということをおっしゃっているわけですが、実際有線放送に関して言いますと、どういう情報伝達手段が有効なのかということがまだ自治会の中でも色々議論が進められていないというのが現実だと思います。といいますのは、例えば無線をすでに取り入れているところもありますけれども、隣の山北地域でも村上市に合併する前に有線という仕組みがあったものを、光ケーブルを使った情報システムに移行するという事で数億円かけて構築したというところもあるのですが、それは各世帯で月の使用料が発生するもの

であります。そういう負担とサービスがつきまといますが、自治会であるいは各世帯でどういう負担をしてどういう情報手段が有効なのかを今後検討したいと思っております。防災行政無線についてはご存じのように明日から本格的にデジタル化ということで切り替わりまして、各世帯に入っている個別受信機は今までのアナログ式なので聞こえてきません。代わりに自治会が所有する有線のアンプに接続することになりますので、それで定時の放送やチャイムが有線のラインを使って各世帯に入るという仕組みになりますので、その点についてはご理解をいただきたいと思っております。

委員

今回の防災無線の回収に関わって回覧版で各集落に回したわけですが、それがおばあさんだけのところとか、高齢者のみの世帯とか、そういうところでは回覧だと回ってしまうわけです。全戸にしてくれればよかったかなということと、今温泉では有線放送で一週間回収します、ということで流しているのですけれども、今日有線放送の箱に線がついているんですが、それを切って持ってきた方がいました。防災無線と有線放送の2つ箱があるものですから、線を切られると電気屋に頼まないと繋げないという、そういう事もあって、周知の仕方を少し考えていただければありがたいのかなと思います。

委員

明日から、防災無線の有線が繋がるということで、今日お昼に試験の電波が流れました。どうもありがとうございました。それはいいのですけれども、まず鼠ケ関の場合、有線放送が聞こえなくなるということが多々あるものですから、そういう場合、防災無線も聞こえなくなるということになりますが、その対応はどうすればいいでしょうか。

市 三浦総務企画課長

事情は分かります。が、あくまでも有線は自治会の所有する設備ですので、自治会でその対応はお願いしたいと思っております。ただ防災無線は屋外のスピーカーでも同時に放送が鳴ります。ただよく言われるのは強風の際は聞こえないとか、締め切っている時はなかなか聞きづらいというのは分かりますけれども、まず有線等の補修については何とか自治会でお願いしたいと思っております。

委員

温泉街の賑わいづくりの推進ですが、ここにそぞろ歩きの楽しいあつみ温泉と書いてありますけれども、日中は川も見えてそぞろ歩きがとてもふさわしい場所になっていると思います。しかし、夜になると堀教授のすすめた足元だけの電気だけが灯るのですが、真っ暗で怖い感じなのです。上の方にも防犯灯がないと歩いても怖いし、防犯面でもあまり良くないと思うので、是非上の方にも街灯を付けていただきたいと思っております。例えば、桜の時は桜に電気が灯ってとても綺麗で夜歩くの

もいいのですが、この電気がなくなると普段は真っ暗になってしまうものですか、上の方にも街灯を付けていただきたいと思います。

市 佐藤建設事務室長 今のは道路管理者へという要望ということでしょうか。

委員 街灯がないというのも一つですが、下だけが明るくて上の方には明かりがないので全体的に道路が暗いのです。

市 佐藤建設事務室長 道路管理者が付ける道路照明灯については、例えばカーブや交差点で明かりが必要だという道路構造令によって決まっている場所に付けるという基準です。ですから、歩いている方の防犯上必要ならば防犯灯になると思うので総務企画課の方かなと思います。

市 三浦総務企画課長 防犯灯は市でLED照明をリースで設置して、設置主体は自治会になっていると思うのですがけれども、LED照明にした影響で光の範囲が狭まったのかどうか、自分の地域では見ているのですがけれども、他の所ではあまりよくは見えていないので、今おっしゃっているのは、あんべ湯やかじか通りですか。

委員 かじか通りです。旅館の明かりがついている時は何も問題はないのですが、例えば、旅館が休館日になったりすると真っ暗で何も見えない感じで、歩く人にとってみれば防犯面でもあまり良くないのではないかと思います。お客さんも外に出て歩くこともあるので、やはり防犯面も加味してもう少し明るくできないものかと思い、発言させていただきました。

市 三浦総務企画課長 後で詳しく調べさせていただきたいと思います。

市 佐藤産業課長 今の意見はかなり以前から議論されていて、結果として既に温泉街の川沿いの整備あるいは足湯の整備、これは十数年かけて温海が取り組んできた公共整備が行われた結果です。その前に、今お話しに出た東京大学の堀先生というまちづくりのアドバイザーの方から様々なまちづくりの成功例や考え方を地元の温泉街の住民の皆さんや観光協会の皆さんと議論をし尽くしてこういう形でいきましょう、と電線がないような風情、景観を非常に重視した整備をこういうふうにするかと決める以前にそのお話で散々議論したのだと思うのです。そういう整備が終わった後にやっぱり暗いとなって、出っ張りを付けて線を張ったら、きっと目指した川沿いの美しい景観とまたある面では逆の意見があるのではないかなと思います。これはまちづくりの話をするたびにこの意見は出ておりますし、この意見の反対の意見もきっと

聞けばあるのです。これは住民参加でこうしよう、と決めた結果なので、そこは逆に景観を活かしてまちづくりを前に進めるということが私は重要なのではないかと思います。

委員

実際にその時は構想であって、議論して決めたことではありますが、実際に住んでいて何十年かの中にやはりこれではよくないと思う人が出てくるのではないですか。例えば、毎年冬になると壊れる街路灯もありますし、それが果たして結果で良かったというだけではなくて、反省面と捉えるのも必要ではないでしょうか。例えば、銀山温泉にはレトロな素晴らしい街灯があるように、あつみ温泉にも別のもっていき方があるのではないのでしょうか。

市佐藤産業課長

それは十分あってよろしいのだと思いますけれども、公共整備というのは一度手をかけてお金をかけて整備したらそうそう直せない筋合のものですので、その前に十分議論し尽くしてやろう、ということの結果がこのようになってきていると私は思いますので、今現在に至って不便な点や危険な点があれば、これは見直しも当然あっていいと思いますので、それは多様な意見をもう少し聞いてみんなが総じてもっと明るくすべきだと、景観よりも安全を重視して街路灯をいっぱい付けてその方がいいのだということがあれば、それは検討材料になるのではないのでしょうか。

議長

今の意見は自治会との関連もありますが、私達も自治会の運営をしているわけです。各地域から暗いから街灯をつけてほしいという要望が出ますが、あえて設置の数は増やしておりません。それは維持管理費もかかるし、電気料も自治会で負担してきたわけですが、風が吹くと街灯が故障するので負担が多いものですから自治会としては数を増やさないで、必要な場所に移動してきたというのが実情ではないかと思えます。温海地域の場合は集落も点在して長いものですから、維持管理は他の旧鶴岡市内からみれば多くかかるということで、そういう部分では自治会費の負担が多いのではないかと思います。自治会運営の観点から話題があればお願いします。

委員

先程の件は足湯の屋根と街灯の暗さ、これはもう十分にご意見がありまして、ただ理念とする最初のところで堀先生の言う屋根の件は、気持ち良いときに気持ちの良い場所、それが一番の心地よい満足度、それが一番大事だということで我々も了解して屋根をなくしました。かじか通りの暗さは本当に感じております。例えば、信用金庫の所や榎本写真屋に水銀灯らしきものがありますが、あとは全部下ということで、旅館が休館日の場合は暗いかとは思いますが。ただ、それも産業課長からあったように推移しておりまして、これに新たに設置ということになると全部自治会

負担でやらなければならないので、もう少し検討していきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

委員

観光協会について伺いますが、昔は観光協会というところすごく賑やかで盛り上がっていましたが、今鼠ヶ関支部を見ましても観光協会は一体何をしているのだろうと思われる部分もありますし、温海の観光協会も日曜日がお休みになっているということを伺いました。これから日沿道の全線開通に伴い、やはり一番一生懸命やらなければならないのは観光協会や商工会、地元もそうですがみんな一緒になってやらなければならないのですが、もう少し元気を出してもらいたいと思い意見として出してみました。

委員

現在、観光協会をとりまく環境が大変厳しくなってきました。具体的に申し上げますと、5年前には観光協会費という会費収入が600万円位ありました。昨年300万円台に落ちました。今年度の観光協会総会でも話題になりましたが、会費に対する事業経費がありますが、人件費の割合が50%を超えてしまって、つまり事務員の給料を払うだけで、事業費にまわせなくなっている状況になりました。昨年度あたりからイベント等を含めた事業の見直しを続けておきまして、基本的には規模を縮小していく方向で検討せざるを得ない状況まで追い込まれております。そんな中、人件費3名体制だったところを1名減らして2名体制に変えております。この人件費1名分をなんとか事業にまわすことになりました。それに伴い日曜日営業を行っていたところ、2人体制になるということで、どうしても休みを入れないといけなくなり、今まで3人体制であればローテーションで毎日稼働できましたけれども、やむなく日曜日を休館日とさせていただいております。その代わりといっちはなんですが、訪れるお客様になるべく迷惑をかけないように、あつみ温泉のそぞろ歩きを楽しんでもらうために今年度から急きょ温泉街に民間の観光案内所を設けました。民間の案内所を設けることで、観光協会が休みの時に民間の観光案内所を3か所つくりまして、訪れるお客様に対してパンフレットを配るなど、観光案内も含め旅館の宿泊所案内等を実施しております。当然試験的になりますけれども、今年の9月から実施しています。来年度以降も3名体制のところを2名体制でいくように今計画をされていて、イベント事業等の見直しを進めておりますので、日曜日が休館日というのはそういった形でやむを得ないと思いますし、その代わりとして観光案内所でなんとかクリアをしたいという形で動いております。旅館も含めて観光協会は益々減少傾向にありまして、今やっと2名体制をとり、市からの助成金をいただいて運営しているところですが、この辺もどうなるか分からない状況が続いております。この中で、観光については観光協会ですべてという感覚があると思いますが、我々としては出来る範囲でやっつけよう、ただせつかくお預かりした観光

協会費が半分以上人件費に消えるようであれば本来の姿ではない、ということでやむなくそういう形をとらせていただいておりますので、今後ともご理解をいただければと思います。

委員

観光協会のことが出ましたので、会長も新しく代わったわけですが、先程申し上げたように人を集めないと駄目なのです。例えば、森林組合に視察に来る人たちからあつみ温泉に泊まってもらう。前は旅館にも人が来て栄えていました。観光協会費の50%が賃金に消える、残りの50%で事業費ができるわけがありません。この辺の遅れが人の寄らない元になっていて、アイデアも出すことが出来ないような観光協会の状態になっております。温海川でカタクリ園、ミズバショウ園を自費で運営していますがかなりの人が来ます。そのようなもののPRもできない状態なので、市も含めてみんなで考えていかないといけないのではないのでしょうか。山を活用する提案として、金峰山から母苧山、湯ノ沢、三方倉山を通過して摩耶山をつなぐ遊歩道を整備してはどうか。鶴岡の銀座通りに車が1台もなくとも、月山では車を置くところがないだけ賑わっているのです。山は高齢者にとってちょうどいい気圧で健康に良いといます。この事業をやれば宿泊、車の代行など新しいビジネスも生まれる可能性があります。森林管理署からは遊歩道を作ってもよいという回答ももらっています。

日沿道の全線開通に向けては、鼠ヶ関でもいかに街の中に人を集めるかを考えておかないといけないのではないのでしょうか。日沿道が開通したら345号線を通る観光バスが春と秋に1台も通らない。バスが通過することで元気付けられたものです。紅葉の時期に観光協会はなんでPRができないのでしょうか。やはりこの機会に、この懇談会や市でも考えていかないと温泉は消滅しますので、頑張ってくださいと思います。

委員

各団体の婦人部、青年団、老人クラブの元気がないということですが、私の集落では見えてあまりそういうことを感じません。今、鈴には老人クラブはありませんが、老人クラブがなくなってから男子だけですが60歳以上のシニアクラブをつくりました。毎月自治会費徴収の時に1人1,000円の会費を集めて、年一回旅行に行ったり忘年会をしたり懇親会的なことを行っています。それで、婦人部や青年団もありますが、鈴の集落は全戸が出る作業が多いので、年2回農道の草刈りや春秋祭りの神社やお寺、公民館の清掃など行っていますし、年1回の海岸の掃除は全戸が出て行っています。若い人が出たり年配の人が出たりと良いコミュニケーションの場になっていると思います。グラウンド・ゴルフも自治会主体で年2回行っています。これも集落の人口から考えると若い人から年配の人まで結構出てくれるようです。様々なことを考えてみても、我々こういう点に関しては元気のある集落

なのかなと思います。芋煮会では青年団や婦人会が主体となって実施してくれます。参考のために話をしました。

委員

18ページの地域の特性を活かした地域産業の創出というところですが、新設住宅着工戸数が減少傾向にある中で、地域経済の活性化に繋がる地元の工務店や大工などによる地域産業を活用し、とありますが、大工の件ですが最近職人の方々も少なくなってきていて、昔は庄内大工と言われて大工も宝だったと思うのです。これから大工の育成、失業保険を受給している方の職業指導という面での大工の育成というところがあってもいいのではないのでしょうか。あと、第1次産業の農業と漁業でこの地域も生きていかなければならないので、無職の方に声をかけられるような仕組みもつくっていただければ、行政でつくるのは無理なのかもしれませんが、そういう方向性も必要ではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市鈴木支所長

今おっしゃる通り、大工に限らず土建業も後継者不足ということで大変な状況でもありますし、全体的に温海地域の人口が鶴岡の中でも減少率が高いということで、担い手の面では大変重要な課題となっています。ただ、この住宅に関しましても鶴岡産材を使った場合の支援など、側面的な支援で木材を活用して大工を継ぐ人を育ててほしいという形の支援はやっているのですが、直接大工になる人にお金を出すことは今現在ありません。以前にも温海には学校があった中で、大工が減ってきて学校が閉校した経過もありますが、そういう雇用の確保という面ではこれからも大きな課題になると思うし、総合計画の中でも大工ではありませんが、森林を伐採してその跡にかぶやわらびを植えたりして雇用を創出することで、今のまち・ひと・しごとの中でもモデル的に温海で取り組もうという計画もありますので、こういう育て方はどうかという皆さんの案があれば、来年度に限らず将来的に支援の形は様々あるかと思ひますので、ご意見をいただきたいと思ひますし、今佐藤委員さんがおっしゃった課題は私共も十分認識しておりますので、様々なご意見をいただければと思ひます。よろしくお願ひします。

委員

15ページの過疎地域における集落活動の中の支援ということで直接関わるものですから、是非意見を申し上げ、できれば答弁もいただきたいと思ひます。

最初に、地域おこし協力隊を3名、福の里の推進委員1名ということで4名の若い人を配置していただき今活動をしています。地域の中に若い人が入ってくると非常に活気が出て良い事です。色んな活動も一緒になりながらやっていますし、この部分については市の方に御礼を申し上げたいと思ひます。

地域の物を使いながら、色んな特産品開発や福祉、情報発信ということでやって

いますが、まだ半年ということでもまだまだですけれども、これはなんとか実にしていきたいと思っています。

小さな拠点づくりの推進という新規事業があるようですが、具体的にはどういうことを目指して、どんな事業を展開していくのかお聞かせ願いたいと思います。それから、字句的には特徴ある地域づくりや地域にあった振興策とあるわけですが、動いている中身は全て均一化、金太郎飴的な施策になりつつあると思います。それもある意味やむを得ない部分もあるかもしれませんが、私達の住んでいる地域の過疎化を考えた場合には、少し思い切ったことをやらないと過疎が止まるものでもないかと思えます。人口を増やす気はありませんが、住んでいる人がいかに楽しく健康に住めるような地域づくりと思っていますので、是非地域の特徴を活かしていくようなものについては均一化したものではない弾力的な考え方でお願いできればと思います。そういう意味で言うと、有線放送などはいいい例ですが、温海だけでなぜ悪いのだろうと逆に思うわけなので、それが一番いい方法でやってきたわけだし、これからもやっていきたいと思っていますので、是非その辺については特徴ある地域づくりを活かしていただき、地元の要望を取り上げていただくような動きをこの総合計画の中でしていただければ大変ありがたいと思います。とりあえず、小さな拠点づくりの部分で目指すものや考え方についてお聞かせいただきたいと思えます。

市 上野主査

私の方からは、小さな拠点づくりについて説明させていただきますけれども、先程話がありましたが、コンビニがなくなって大変だとか、買い物ができないとか、こういう状況が色んな地域にあるわけで、そこの生活の維持、そういったものをどうしようかということを考えながら取り組んでいこうということでもあります。具体的には、今想定しているのは朝日地域を想定しておりまして、バス路線もなくなるという課題もあることから、生活機能を維持するために拠点をどうやって集約していくか、そこに行くための交通基盤をどうしていくか、そういうことで朝日地域をモデル的に検討を進めていこうかと考えているところです。

委員

24ページの放課後児童の居場所づくりというところですが、来年統合になるわけですが、五十川、山戸、福栄の子供たちがスポ少をするといった場合の放課後、一旦家に帰って宿題をする暇もなくまたスポ少に出てこなければならぬのか、それとも学童保育あるいは学校の空き教室をはじめとしたそういう所を使わせていただき、そこからスポ少に行けるようになるのか、その辺の放課後にどのような使い方ができるかお聞きしたいと思います。

市 三浦総務企画課長

統合準備委員会でこの件については検討している状況でございますが、今の経過

としては、午後4時で下校ということになりますと、例えばスポ少が午後6時から始まるとした場合約2時間空きます。今、温海小学校ではその間空き教室で子供たちが休憩できる時間を過ごせる場所を提供して、スポ少の保護者から誰かついてもらい鍵の開け閉めや子供たちを見守るという仕組みを検討している最中です。

議長

今の件は実行委員会でも話になっておりまして、補助事業があるということですから。子供たちが家に帰らず空き教室を利用して、その時間帯まで遊んだり勉強したりといった対応が各先進学校でも行われているということです。

市三浦総務企画課長

この補助事業は放課後子ども教室ということで、国の方でいうと文部科学省の方の補助制度になります。ただ、受け皿となる地域協議会が必要で、そこに自治会や保護者の団体が入ってそこで運営するという仕組みになるものですから、温海の場合はそこまでいってないという状況で、先程言いましたように、スポ少の子供達については学校の協力と保護者で運営していこうということになっています。

議長

それをこれから相談して要望することになっていて、予算要求も併せてという話ですね。

その他皆さんからなければ、私の方から前回の分散会のまとめ、あわせて今日の皆さんのご意見を聞くと課題は大分整理されたと思いますが、先程大井さんが話された課題をブロックごとにまとめて、一つでも前に進めるようなものがないのかなということを先程から話の中で聞いておりました。今日は今年度最終の地域振興懇談会ですけれども、それをまず事務局からまとめてもらって、それを今後の事業に活かしていただければありがたいと思います。各委員の皆さまからは思ったことをどんどん言ってもらったわけですが、それをまとめていくにはどうしたらいいか、具体的に事例をあげながらお願いしたいと思います。あと、自治会費の上がっている部分についての課題整理、例えば財産管理が年々多くなっているものですから、自治会費を値下げできない部分も温海の場合は多く、昔からの課題ではないかと思えますので、広大な面積を管理している自治会の運営、組織の課題もあるようですので今回の意見の中からまとめていただき、いい方向になんとかできないかということをお今回の懇談会の中で感じましたので、事務局の方でもご意見ありましたらお願いしたいと思います。

市鈴木支所長

先日の自治会長会議でもコミュニティ推進計画の中で温海地域の現状と課題ということで、今おっしゃった自治会の負担の関係や後継者の問題など課題を整理させていただいたものもごございます。本日説明させていただきました総合計画の実施計画につきましては、まずは方針ということで大きな枠組みでこの方針に基づいた

細かな一つ一つの事業が予算となって反映されているわけですが、一つ一つの事業までここに記載できないということから分かりにくい部分もあったかと思いますが、まずは市の進む方向を皆さんからご確認いただければと感じているところです。これまでの地域審議会、あるいは今年度からの地域振興懇談会でいただいた意見につきましては、庁舎から予算要求をあげて実現しているものもありますし、本日いただいた意見をまとめまして29年度以降の庁舎の政策に反映できるものは盛り込んでやっていきたいと思っております。先程五十嵐委員からありました通り、地域の特徴をどう活かすかという面でも私共も考えているところでございますし、その柱が地域の振興ということで3つの柱で進む中で農業であっても中山間の農業、平場の農業と違うわけですので、その辺の特徴は私共も主張しながら進めているところでありますし、先程の有線放送の関係につきましても、温海地域全体としてどの方向がいいのかということは各自治会長さんからの意見を踏まえて、これが温海地域の方向性だとまとまった時点で、あらためて庁舎としてもそれをまとめて市の政策として反映させていくという考えも持っておりますので、今後ともご支援いただければと思っております。まだまだ課題はあるところでございますけれども、前に進めるためにご支援いただければと思っております。ありがとうございました。

議長

今、支所長の方からまとめの話をさせていただきましたけれども、皆さんかご意見があればお願いしたいと思います。

それでは、(3) その他で皆さんからご意見ありましたらお願いします。

委員

第1回目の地域振興懇談会で話したトライアスロンとさくらマラソンの事務局の関係ですけれども、支所長、総務企画課長からは体育協会、実行委員会と協議しながら、ということその場ではいただいたわけです。ところが、29年11月からふれあいセンターに職員1名を増やしてそこで行います、という期限が出てきたわけです。協議が一切ないところで29年11月ということは30年のさくらマラソン大会からは事務局をそちらに移行しますということだと思います。今日は返答はいいませんがそろそろ協議していかないとならないと思います。

前回の懇談会の発言で間違っていた点があります。庁舎にいる職員数70名位だろうと申し上げたのですが、温海庁舎ができた当時は120～130名位はいたと思います。今現在数えましたら51名でした。うち16～17名が本所からの異動ということで、51名全員が温海の方ではありません。それからもっと詳しくみると、10年間で温海地域から本所に異動した職員が何名位いるのかは正確に出てきませんでした。10年前温海町役場時代であれば退職者と同数近くが温海地域から採用されてきたわけですが、今はそうではありません。

市でやっている事業で職員を動員していただいているのは市駅伝しかないそうです。それは教育委員会ということで応援体制を敷いているそうです。たぶん退職された方ですが、よそからここにきてさくらマラソンとトライアスロンに動員をかけられるのは馴染まないのではないのかということをおっしゃっていました。

最後に、鶴岡市と企業で、ポスター「打ち上げようみんなの宝物」ということで花火が2本あがって花火に鶴岡の宝物が書いてあり、温海地域が結構載っております。ありがたいと思いました。ただ、スポーツについてはスキーと国際ノルディックウォークの2つだけしか載っておりませんでした。さくらマラソンやトライアスロンといった温海のものは載っておりませんでした。非常に残念だと思いました。

委員

皆さんもご承知の通り来年9月11日に全国豊かな海づくり大会が酒田と鼠ヶ関であるわけです。先般、酒田の1年前のプレイベントに行ってきましたが、その時「ねぎサミット」が開催されていまして。土日の2日間で4万人集まったということでした。それで、来年9月11日に鼠ヶ関で行事があるわけですがけれども、市の方としては何かイベント的なものは考えているのでしょうか。

市佐藤産業課長

来年の本番にあわせたイベントということでしょうか。現時点で私から申し上げることはございません。というのは、全国から招待者を招いて限られた人しかその大会には入れないようで、今回開かれた富山では、会場にぴったりくっつけて賑わいのイベントを開催しておりました。ただ、会場そのものにたどり着くアクセスがそれもまた限られておまして、なかなか自由に普段通りガヤガヤ押し寄せられる状況にはないようでした。警備が非常に厳しくて、果たしてそれに合わせたイベントが効果的なのかどうかも含めて考えないと、今回の酒田の場合は1年前のリハーサルですので、より多く寄せるために抱合せたのだと思います。来年の本番に鼠ヶ関にまた大きなこういうイベントを抱合せるとするのはスペースからしても厳しいのではないかと思います。

委員

最後になりますが大変いい勉強になりましたし、森林組合の方も十何年前に多額の負債を抱えて苦勞しまして、他との合併も蹴られた経過があります。今現在温海町として名乗っているのは森林組合だけです。お陰様で十何年になりますが、先日林野庁長官賞をいただいて、明日、県と市に挨拶に行くところまで発展しております。ありがたく皆様方に感謝しております。特に行政の方には本当にお世話になりました。その為にいただいたのだということ感謝に耐えません。これからは、森林組合でいつでも言うておりますが、とにかく人のまねをしては遅い時代です。発想、

工夫、アイデアを出してほしいと思います。観光もそうだと思います。アイデアはいくらでもあると思います。人を集めるには確かに容易ではありませんが、アイデアを募って人をいかにして集めるかということをもみんなで発想、工夫を出してやって、そして物を売っていけば立派な温海になるのではないかと考えておりますので、林業も農業もこれから皆さんの知恵を借りたいと思いました。今日は本当にいい勉強になりました。

委員

今農業の話も出ましたので、皆さんに情報提供という形でお伝えしておきたいと思います。その前に、先程出ました山戸小、福栄小、五十川小は使い道が決まったようですが、旧温海高の使い道が計画の中には盛り込んでいない形になりますけれども、これらの使い道を何か考えているのかどうか後でお聞きします。

農業の関係で温海農地保全組合は実質今年で丸2年終わりました。お陰様で農業が厳しい中で600万円位の黒字になります。やり方次第では農業もまだまだ見込みがありますよ、というおおよその方向性がだいぶ見えてきました。今、各集落ごとにブロックを作って、個人個人ではなくて集落ごとにブロック単位で、例えば福栄班とか山戸班、五十川班とかそういう大きなくくりの中で、まず集落の中で荒れている土地はみんなで守っていこうという方向を今確立しつつあります。そして一番困っているのが今、耕作放棄地がどんどん増えてきているということです。増えてきて集落でも対応できなくなった分は保全組合が担っていくという仕組みを今つくっているわけですが、いかんせんこれが毎年増えてきます。毎年増えてくるのに人がいないということになりますと、今登録している人が90人位いるのですけれども、なかなか対応できないだろうとそんな予想で、なんとか土地を守っていきたいというのが今の現状です。これが一つの悩みですが、その方向で保全組合は温海の農業全体を担っているといっても過言ではない位今忙しいです。それで、色々やりたいことがいっぱいあります。やるべきこと、やらなければならないこと、やりたいと思うこと、例えば、温海高の空き地の中に羊を放したいとか、小さい動物をまわりにおいてアイスクリームや羊の肉を販売したりと、そのノウハウも早めに確立したい、そういう施設も利用させていただければと思います。それから若い人が年間を通してずっと農業を生業として年収400万から500万とれるぐらいの農業のあり方を今検討しています。例えば、ハウスを利用して冬場もやれるようなもの、それから水耕栽培でずっと年間やれるもの、農協の組合長も最近ようやく言い始めました。米一辺倒ではだめで、1品目10億円を目指した作目を確立したい、というようなことを随分言い始めてきましたので、温海の中でも特化した作目、先程かぶの話がでましたけれども、かぶで10億円はすごいことですよね。焼畑で10億円のかぶを温海の中で生産するという事は、これはすごいことだと思うのです。だとすれば、それに特化した温海だけの特徴を出していくという、これも一

つの農業の形であろうと思うのです。今まで温海の欠点はひとりひとりが少しずつ生産するものですから集めるのも大変、売るのも大変、あとは皆自家用にまわってしまうと、そういう部分が相当でしたので、これからは大きな、10億円とはいいいませんがそれを目標にして頑張っていけるような作目、農業としての役目を果たしていければと、そんな思いでおりますので、色んな意味で保全組合が受け皿となってやりますので、そのことも是非皆さんからも頭の隅に入れてもらい、保全組合の取組みをPRしていただければと思いますのでよろしくお願いします。

市 三浦総務企画課長

小学校統合の関係で、小学校4校が1校になるということで、ご存じのように五十川小学校は校舎の一部が小規模多機能ということで計画の準備段階に今入っているところです。その他については、利用計画はまだ何も定まっていません。あと、山戸、福栄についてもまだ具体的な利用計画、使用などは入っておりません。ただ、あくまでも地域での意見集約が重要だと考えておりますので、各地区では当面今まで利用しているような運動会やレクリエーション、球技大会ですとか、そういった使い方はしていきたい、という希望はあがっております。よろしいでしょうか。

その他こちらから1点報告をお願いします。

市 齋藤地域振興専門員

本日皆さまのお手元にお配りしました冊子のことをお話させていただきたいと思います。この冊子は鶴岡市で先程計画の方にもございましたが、人口減少対策の一環といたしまして、移住、定住、促進を勧めているところでございますが、その中で今年は移住コーディネーターを1名配置して、より力を入れているところでございます。実際、移住といいますがやはり住まいから仕事、子供の保育園などをどうしようかということで、本当に多岐にわたり、そこを窓口一本にしているということで、移住を考えている方のハードルを下げているような状況でございます。実際に窓口で相談を受けたり、首都圏の方に行って移住フェアというものがございしますが、そういった所でPRなども実際行っている中で、やはり鶴岡の暮らしはどんな暮らしがあるのかとよく聞かれているようでありましたので、鶴岡の藤島から温海地域それぞれの地域がこんな暮らしがあるというような逆に提案をするといった冊子でございます。また表紙の2人も実際移住してきた丸山さんというご夫妻でございますので、そういった体験談をまとめた冊子で、こういったものを使いながら、より鶴岡の暮らしをPRに使っている移住ガイドブックでございます。冊子は色んな所で配置したり配布していますし、後でゆっくりご覧になって、移住したい方がいらっしゃいましたらPRなどもしていただければと思います。

委員

今本を見て気がついたのですが、あつみ温泉開湯1300年と書いてありますが、私の調べでは西暦849年に大地震があつてお湯が沸いたという歴史上の事実

がありますので、1150年前なのです。1300年というと湯田川温泉でして、もし根拠的に1300年が本当であれば庄内で唯一古い温泉と言えるので宣伝もできるのですが、間違いなく1300年ですか。

市 齋藤地域振興専門員 持ち帰って調べさせていただいてよろしいでしょうか。

委員 私的には最古の温泉と言えるかどうかということなのでお願いします。観光協会としては約1150年前、西暦849年にこの地域に大地震がありお湯が湧き出たというのが通説になっているようです。

委員 鶴が傷を癒していたという話がありますが、それはどうでしょう。

委員 鶴が傷を癒していたというのは上山温泉も同じですが、鶴が傷を癒しているところを木こりが発見したとか、弘法大師が夢枕で山を見たら湯けむりが上がっているから行ってみなさいという話がありますけれども、それも1000年前位の話なのです。数字が出ていないのです。鶴やキジが傷を癒したというのは今言ったように上山温泉も同じになっていて、全国には弘法大師が発見という温泉地はまだいっぱいあるのです。私がガイドをしていて、今それを言うとあそこの温泉もと話が出るので、この歴史上の事実として西暦849年に地殻変動があったという記述がありますので、これでお湯が湧いたのだということで、例えば温海地域の海辺にお湯が川から流れて行って海辺が一時的に温かくなった、それで温かい海であつみ温泉という名前になったという説明をさせてもらっています。

議長 これをもちましてその他を終了させていただきます。事務局から閉会をお願いします。

市 三浦総務企画課長 奥井会長、進行ありがとうございました。それで、今年度の地域振興懇談会につきましては、今回をもって終了させていただきたいと思います。委員の皆さまから頂戴しましたご意見につきましては、先程支所長からお話がありましたように、今後の地域振興策に貴重な意見として活用させていただきたいと考えております。今後とも、ご指導ご協力をお願いしたいと思います。これをもちまして、本日の懇談会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。